

## 海外感染症流行情報(2014年8月)

東京医科大学病院 渡航者医療センター

### ・西アフリカでのエボラ出血熱の流行

西アフリカで発生しているエボラ出血熱の流行は8月になりさらに拡大し、8月20日までの累積患者数は2615人(死亡755人)になりました(WHO Global Alert and Response 2014-8-22)。約1か月前(7月25日:患者数1201人)に比べて、患者数が倍増したことになります。国別ではリベリアが1082人と最多で、シエラレオネが910人、ギニアが607人と続いています。また、7月末にはナイジェリアのラゴスで、リベリアからの旅行者がエボラ出血熱を発症し、その周辺で16人の患者が確認されました。

こうした事態を受けて、WHOは8月8日に西アフリカでのエボラ出血熱の流行が「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」であるとの宣言を行いました(WHO statement 2014-8-8)。さらに日本の外務省も8月8日に感染症危険情報を発出し、リベリア、シエラレオネ、ギニアへの渡航自粛を勧告しました(外務省海外安全ホームページ 2014-8-8)。その一方、WHOは飛行機によりエボラ出血熱が世界に拡散する可能性は低いとのコメントも出しています(WHO statement 2014-8-18)。

エボラ出血熱の感染は患者や遺体との接触で発生します。日本からの渡航者が流行国で感染するリスクは低いと考えられますが、リベリア、シエラレオネ、ギニアは社会情勢も悪化しており、これらの国への渡航は延期すべきです。また、周辺諸国に滞在する際には、必要がなければ医療機関に近寄らないよう注意するとともに、日ごろから手洗いを励行することが大切です。

### ・カリブ海諸国でチクングニア熱患者が急増

カリブ海沿岸地域では2013年12月からチクングニア熱の流行が発生しており、8月末までに累積患者数が58万人に達しました(Pan American Health Organization 2014-8-22)。この1カ月で10万人の患者が発生したことになります。とくに患者数が多いのはドミニカ共和国で、その数は37万人にのぼっています。また、米国でも輸入症例が636人確認されており、マイアミ州では国内感染例が4人発生しました。

チクングニア熱は蚊に媒介される感染症で、デング熱と同様に発熱や関節痛をおこす病気です。死亡することは稀ですが、新しい地域で流行が始まると患者数が爆発的に増える可能性があります。東南アジアでもここ数年流行がみられており、今年は南太平洋のサモアやトンガでも患者が発生しています(英国 National Travel Health Network and Center 2014-8-19)。日本からの旅行者も流行地域では蚊に刺されないように注意する必要があります。

### ・今年の東南アジアでのデング熱流行情報

東南アジアの多くの地域が雨季に入り、デング熱の流行シーズンを迎えています。マレーシアでは今年の患者数が53000人と昨年より増えていますが、それ以外の国では、今のところ患者数が昨年よりも少ない状況です(WHO 西太平洋 2014-8-12)。東南アジアではこれから暫く雨季が続くため、引き続きデング熱にはご注意ください。

#### ・オーストラリアでのインフルエンザ流行

南半球は冬のシーズンを迎え、インフルエンザの本格的な流行が発生しています(WHO Influenza update 2014-8-25)。今年はオーストラリアでの患者数も多く、昨年の2倍にあたる2万人の患者が確認されました(Fit For Travel 2014-8-13)。流行のピークは既に越えたようですが、現地に滞在する際には手洗いやウガイなどの予防対策をとるようにしましょう。なお、オーストラリアではH1N1型のウイルスが多く分離されています。

#### ・米国カリフォルニア州で百日咳流行

今年の4月頃から米国のカリフォルニア州で百日咳の流行が発生しています(米国 CDC 2014-8-18)。8月中旬までの報告では患者数が7500人以上に達しており、2010年の流行で発生した年間患者数(9159人)を越える可能性があります。地域としてはサンディエゴやサンフランシスコなどで多く、患者の年齢はほとんどが18歳未満(平均15歳)の小児や学生です。学校での集団発生もみられています。日本からカリフォルニア州の学校に留学する際には、出国前に百日咳ワクチン(DTP ワクチンなど)の追加接種を受けることも検討してください。